Letter of the M.Y. elementary school

ひ び き　南山田小学校だより

～ ともだちいっぱい　かがやく子 ～

学校通信　NO.325
令和　５年度　７ 月号
令和　５年６月30日

プラネタリウムと蛍

校長　鈴木　智彦

ピカピカみーなちゃん

夜の森を友達と集団で一緒に歩く。足元を照らすのは、懐中電灯とわずかばかりの月明り。日中の暑さとは異なる涼しさを感じながら、遠くから聞こえてくる蛙の声。

暗い木々に覆われた一本道を下っていくと、小さな黄色い光が点滅しながら移動してきます。

「あ、いた！」「どこ？どこ？」「あそこ！あそこ！」

指さす先に、蛍がゆっくり飛んでいきました。先の方からは「うわぁ、きれい！」と歓声が聞こえます。そのまま歩いていくと、水辺の周りに複数の蛍の光が瞬く幻想的な景色が広がっていました。

この時、一緒にナイトウォークをしていた子が「プラネタリウムみたい」とつぶやきました。私は、この気付きが凄いなぁと思いました。

この日は５年生の上郷宿泊体験学習でした。午前中に、はまぎん子ども宇宙科学館で子どもたちは、プラネタリウムを鑑賞しました。知識として知っていたかもしれませんが、実際に体験し、それはイメージとなって、その子の中に大きく残っていたのではないでしょうか。そこにナイトウォークでの蛍の様子。この二つは全く別の物ですが、その子の中で、「周りの暗さ」「光の具合」「分布の様子」等が共通項として整理され、「蛍」が「プラネタリウムみたい」という気付きになったのでしょう。

子どもたちは、活動しながら様々な情報を収集します。調べた情報も大事ですが、実際に自分が体験して得た情報は、より大きな根拠をもって子どもたちの中に根付きます。理科の授業で「プラネタリウム」や「蛍」について調べても、おそらく、先ほどのような気付きには至らないのではないでしょうか。実際に体験し、心に残っていた情報だからこそ、この二つを結びつける気付きが生まれたのだと思います。そこに、具体的な体験を通して学ぶ良さがあると思います。

昨今、教育 DX が話題になっています。これからの子どもたちは、デジタルリソースが当たり前の環境で生きていくのでそれは必然です。しかし、同時に直接体験の重要性も増していると思います。それぞれのよさを活かしつつ、日々の学習を大切にしながら、自分の根拠をみんなで語り合う学びの場を作っていきたいと考えています。